

日時：平成26年4月24日

午後1時30分から午後3時まで

会場：瀬戸市役所 3階 全員協議会室

委員の参加者数：委員15名中11名参加

(欠席：大野委員・岡崎委員・青山委員・水野委員)

【議事】

1 委員の紹介

委員変更 櫻本 好美委員から和佐田 強委員に交代

2 議題

(1) 「量の見込み」の算出について

資料に基づき説明

(委員からの意見)

○現在の保育所の定員数は何人であるか。

(事務局 回答)

保育園の定員は2,120名となっている。

○子どもがいる世帯数はわかるか。保育に関するニーズは世帯の構成によって大きく変わるのではないか。

(事務局 回答)

アンケート調査時では5,017世帯、6,634人である。児童数と世帯構成は以下のとおりとなっている。

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	児童数計	世帯数
水無瀬	154	173	183	177	173	180	1040	785
祖東	53	49	47	56	60	43	308	229
南山	220	254	270	268	308	351	1,671	1,251
本山	34	20	46	49	38	32	219	172
幡山	212	212	177	187	204	205	1,197	924
品野	75	92	89	87	75	106	524	387
光陵	82	70	88	92	96	113	541	421
水野	159	187	184	191	195	218	1,134	848
計	989	1,057	1,084	1,107	1,149	1,248	6,634	5,017

○地域ごとの特性の視点を加味したほうがよろしいのではないか。

(事務局 回答)

地域別の集計や、委員の皆様からの意見等も踏まえ検討していきたい。

○(委員長) 世帯構成なども参考とし、見込みと齟齬がないか検討していただきたい。

○待機児童が思ったより少ないようだが、「待機児童」の定義は何か。

(事務局 回答)

国の基準に基づき、園を特定していないが入所できない状況にいるの方を待機児童として計上している。求職中の方や特定の園を希望する方は待機児童として計上しない。これらの方を含めると、今年は42名が入所できない状況である。

○(委員長) 求職中の方の数値なども考慮して、今後検討していただきたい。

(2) 子育てに関するアンケート調査分析報告について

資料に基づき説明

(委員からの意見)

○地区別の割合をみた際、大きく誤差が発生するようなケースもあるのではないか。

(事務局 回答)

地区別でみた際、回答した人数が最も少ない地域では、大まかな計算ではあるが、標本誤差が最大15%前後と見込まれる。このような誤差を考慮しつつ、数値を見ていくことが重要である。

○幼稚園の利用希望として、0~2歳の利用希望がある。本来0~2歳は幼稚園の入園対象ではないが、こども園への意向なのか。また、幼稚園での一時預かりのニーズが高いが、利用者の現状として、多い時で30名程度である。

(事務局 回答)

利用希望については、将来、幼稚園を利用したいと考えている方だと思われる。

○分析するときに、地域の特性、サービスの有無、学区を超えての利用などを検討する必要がある。例えば、幡山中学校区で保育ニーズが高いからといって、幡山中学校区だけで、保育ニーズの充足を図るのは危険なのではないか。居住地域と離れた保育所を利用するケースも想定される。

(事務局 回答)

アンケートの結果のみではなく、社会資源の状況や社会動態、実態などを総合的に勘案し、施策展開を図っていく予定である。

○子育て家庭の孤立について、水野地区は確かに孤立している家庭が多いような状況である。父母の会というものがあり、役員をやっていただくと地域の方とたくさんのネットワークができた事例も聞いている。どんどん社会に出ていくことが重要である。

○保護者の立場からみると「支援サービス」「保護者同士の触れ合いの場」が重要であるのは子育ての経験上、実感として感じた。ただし、子育て支援センターや育児サロンなどを利用されないケースは事業の内容とニーズがあっていないこともあるのではないかと考えられる。一度、事業の内容を見直すことも必要ではないか。

○祖東や光陵も地域でサロンがあるので、祖東や光陵が支援センターの利用が特に少ないのはなぜだろうと感じた。孤立を防ぐのはサロンに出てくることが重要だが、外に出られない方をどのように掘り起こすのは重要である。

○瀬戸市の保護者が情報収集をどのような形で行っているのか。情報を周知させることは特に重要である。

(事務局 回答)

アンケート結果から、広報やホームページの利用が多い。

○就学後の子どもをもつ保護者への支援も必要なのかと感じる。市としてどのような取組を実施していくことが重要なのかを検討したい。親子が一緒に過ごす時間が少なくなっているため、小学生の子と保護者が一緒に遊ぶ取組を行っているが、参加が少ないのが現状である。

○(委員長) 就学後の子どもをもつ保護者のニーズなども把握できればよい。今後、何らかの形でニーズが把握できないか検討していただきたい。

- （委員長）小規模保育施設へのニーズがあるが、小規模保育施設の内容をきちんと把握したうえで回答しているのか疑問もある。小規模保育は設置基準が緩和されたので、保育の質が確保されるのかを十分検討したうえで、保護者のニーズに添えていくことが必要である。

（3）その他

「子ども・子育て支援新制度 なるほどBOOK」（内閣府発行）を配布。